

事務事業名	井戸水位調査事業				担当	産業環境部 環境課 公害対策係		
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-8127		
施策名	5	良好な生活環境の保全			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和45 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1. 保健衛生費	7. 公害対策費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	市民の良好な地下水利用環境を保全するため、第1、第2工業団地周辺の浅井戸（素掘り井戸。深さ約15mまで）の水位を測定し、工業団地での地下水の採取による井戸枯れ等の影響を把握し、市民に公表している。 また、大和田地区での農業用水の汲み上げ不能の申し出により、地下水の水位を平成25年度から調査を開始した。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 25年度実績 毎月1回、浅井戸の水位を測定。 大和田産業団地周辺の井戸1箇所を追加し、更に、10月に3箇所を追加して水位を測定。 26年度計画 25年度と同じ	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移								
	名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)		
	ア 調査回数		12	12	12	12	12		
	イ								
	ウ								
エ									
オ									
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 地下水	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移								
	名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)		
	ア 調査する井戸の数		9	9	9	13	13		
	イ								
	ウ								
エ									
オ									
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 測定データの蓄積により、現状と傾向を把握できる。また、データの公表により、市民、事業者の節水意識を高め、地下水を保全する。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移								
	名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)		
	ア 水位が下がる傾向にある井戸の数		0	0	0	0	0		
	イ								
	ウ								
エ									
オ									
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 良好な生活環境の保全	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移								
	名称	単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)		
	ア 井戸枯れ相談数		0	0	0	1	0		
	イ								
	ウ								
エ									
オ									
(2) 総事業費の推移		単位	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	18	18	18	18	0
	事業費計(A)		千円	18	18	18	18	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	0	
		延べ業務時間	時間	48	48	48	48	0	
		人件費計(B)	千円	205	204	202	195	0	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	223	222	220	213	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	昭和45年度、工業団地での地下水の採取により、井戸が枯れてしまうのではないかと市民からの調査要望により開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	地下水の採取については、「栃木県地下水揚水施設に係る指導等に関する要綱」により、吐出口が6平方センチメートル以上の揚水機の設置は届出制になっていたが、平成25年3月に「栃木県生活環境の保全等に関する条例」が改正され、今後は、条例による届出等となる。 第1、第2工業団地での地下水の採取量は、平成3年までは増加しているが、その後は増減を繰り返している。 また、大和田地区での農業用水の汲み上げ不能の申し出により、地下水の水位について、平成25年度から調査を開始した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 地下水位の状況を把握し、地下水を保全することは、良好な生活環境の保全につながる。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 工業団地の影響調査であり、データの蓄積により市民への説明、事業者への指導等に役立つ。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 地下水を対象としており、井戸水位の測定により、地下水の状況を把握することは、地下水保全につながる。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 現在の調査井戸で、地下水の状況を把握できている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない データの蓄積がないと、状況を把握することができず、井戸枯れ等の対応が遅れてしまう。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業費は、井戸設置者への測定協力謝礼のみで、必要最小限の経費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 水位測定に必要最小限の経費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 地下水位測定業務であり、受益者負担に当たらない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							